

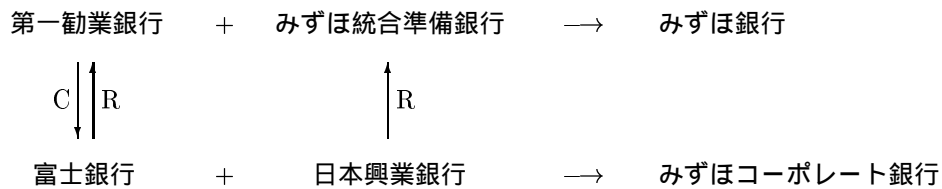
みずほ統合スキーム

第一勧業銀行はコーポレート部門を富士銀行に譲渡し、富士銀行は第一勧業銀行にリテール部門を譲渡。日本興業銀行はリテール部門をみずほ統合準備銀行に譲渡。

第一勧業銀行とみずほ統合準備銀行は第一勧業銀行を存続会社として合併、みずほ銀行となる。

富士銀行と日本興業銀行は富士銀行を存続会社として合併、みずほコーポレート銀行となる。

まとめると以下の図式のようなになる。



註：上図で、R はリテール部門、C はコーポレート部門を表す。

みずほグループは3行の統合であったため、持ち株会社（みずほホールディングス、現在はみずほフィナンシャルグループ）と合せ、3つの会社のトップを用意する必要があり、単純な合併ではなく、3行から2行を作り出す必要があったと考えられる。2002年の統合以来現在まで、持ち株会社の社長は旧富士銀行の、みずほ銀行の頭取は旧第一勧業銀行の、みずほコーポレート銀行頭取は旧日本興業銀行のそれぞれ出身である。

また、最終的には第一勧業銀行と日本興業銀行の抜け殻であるみずほ統合準備銀行が合併し、富士銀行と日本興業銀行が合併したことから分かるように、前身3行のうち第一勧業銀行のみが人事等の全体戦略の中でひとり蚊帳の外に置かれた感がある。